

自力と他力～真の全託行と「世界平和の祈り」～

2010年7月18日 於：神奈川集会

自力のプラス思考を他力の全託行へ変えよう

プラス思考とマイナス思考について、私の考えを申しましょう。

実は白状すると、私も昔は「プラス思考」を講演で説いていたのです。その当時から付き合いのあった方は、今の私の法話を読んで、「あれっ、昔の森島先生の教えとずいぶん違うぞ」と思われたことでしょう。それで、「私が間違っていた。申し訳ない。今の私の教えが本当の教えなんです。昔の教えは忘れて下さい」とある人に謝りました。

ここ数年間、アメリカの自己啓発が日本に定着してきて、「積極思考」「プラス思考」という言葉をよく聞くようになってきました。でも、最近ではその反動のためか、マイナス思考を説く五木寛之の『他力』がベストセラーになったり、「プラス思考だけじゃ駄目なんだ」という本も出版されるようになりました。このように一部の人が勘づいているように、プラス思考には欠陥があるのです。

たとえば「私はできる、私はできる」と自己の能力を信じて、企業を拡大拡張することのみに把われて土地を買い、店舗を増やし続けたある会社は、バブル崩壊後の今日、たくさんの赤字を抱えてしまい、大金持ちだったその会社の会長は、今やとても貧乏になってしまいました。もしプラス思考の欠陥を知っていて、臆病になって将来を心配していたら、バブル崩壊に遭っても、それほど大きな借金を抱えることはなかったに違いありません。積極思想を信じ、バブルに踊ったこうした各企業の現状を見ますと、プラス思考を各企業に講演して回り、数十万円の講演料を頂戴した私としては、自分のしてしまった大失敗に冷や汗が吹き出るのです。その罪滅ぼしのためにも真実の思想を私は説かねばなりません。

真実の思想というのは、プラス思考（積極思想）でもなければ、マイナス思考（消極思想）でもありません。その両方を混ぜた思想でもありません。プラス思考もマイナス思考も、どちらも自力の教えであることに気づいて下さい。「マイナス思考をプラス思考に変えよう」とするのは、誰が変えるのですか？ それは自分が自分の想いを変えるんでしょう？ そうしたら自力ではありませんか！

五井先生の教えは、自力でマイナス思考をプラス思考に変えるのではないのです。そういう自力を捨てて、守護の神霊に自分の運命想念の一切をお任せしてしまうのです。マイナス思考が出てきたら、出てきたままで構わないから、そのマイナス思考をプラス思考に自力で変えようとしなくて、プラス思考もマイナス思考もすべて守護の神霊にお任せしてしまうのです。そうすると、プラスとかマイナスを超えた真の自由思想が生まれるのです。なお、この自由思想で言う自由は、社会で認知されている自由民主主義の自由とは意味が

違ひまして、形の自由を超えた、もっと深い本心の自由を意味しています。そのような自由を日常生活に活かそうという生き方を真実の自由思想と言うのです。そして、この真実の自由思想は守護の神霊への全託から生まれてくるのです。

心配する出来事があったら、善い方へ善い方へとばかり安易に考えないで、その心配を解決するために、常識的に対処できることは裏の裏の裏まで気を配っておいて、「準備万端整える」「人事を尽くす」「細心にして大胆となる」という言葉を実行することが必要です。私は「神さまに守られている」と信じておりますが、万一を心配して自動車の損害保険に加入しております。そのように、心配することがあったら、その心配する問題を解決するために出来ることをしておき、神さまのご加護を祈りますと、より安心できるものです。そして、なお心配する想念が出てきたら、「神さまのみ心のままになさしめたまえ。世界人類が平和でありますように」というように、「世界平和の祈り」の中へと入れてしまえばよいのです。そうしておりますと、悲しい想いも暗い想いも、守護の神霊の光明によって浄められてゆき、自分の心が次第に光明化してゆくのです。他力行である神さまへの全託行は、自力のプラス思考や積極思想よりもはるかにすぐれた方法なのです。

【呼吸法と念力による願望達成法は正しいのですか？】

【ご質問-1】〔要旨：呼吸法と念力による願望達成法は正しいのですか？〕

「三十秒から一分間ほど呼吸を止めて、その間に自分の欲する願望を思い描くと願望が成就する」という教えがありますが、これは真実の宗教の教えなのでしょうか？

【お答え-1】〔要旨：呼吸法は必要なく、念力による願望達成法は誤りです〕

「呼吸を止めて願望を思い描く」というその方法は、真実の宗教の教えではありませんし、五井先生の教えでもありません。どんな行法にしましても、やるやらないは本人の自由ですが、願望成就法については、五井先生は「それは真実の宗教の道ではなく、真実の祈りではなく、念力であり外道である」と教えておられることを明言しておきます。

筋力や瞬発力を高めるために呼吸を一時的に止めたり、体を柔軟にするために息を吐くという動作は、私たちが日常で無意識にやっていることですが、そうした呼吸と心身に連繋する法則を研究して、意識的に呼吸を様々にコントロールすることによって心身をコントロールする、という考え方がヨガにあります。また、息を止めることをヨガではクンバハカ（止息）と呼んでおります。ご質問にあるような教えを説く指導者は、ヨガの行法と念力の教えとを組み合わせで教えているのでしょう。

まず呼吸法についてですが、「息をゆっくりと長く吐くように世界平和の祈りをするとうい」とか「臍下丹田に気を集中しなさい」というようなご指導は、五井先生の個人的なご指導としては確かにありましたが、一般的なご指導としてはありませんでした。印にしても、五井先生が各人に合う印の形を教えられたことがほんの一時期ありましたが、これも誰にでも合うような一般的な教えではありません。

五井先生の教えは、教義の「人間と真実の生き方」と「世界平和の祈り」が基本であつて、呼吸法とか願望をイメージする念力とか、特殊な印を組むという行法はありません。印については、五井先生は「如来印が一番よい」と勧めておられました。呼吸法も特別な印を組む必要もなく、「世界人類が平和でありますように」と守護の神霊に向かって唱えるということが、五井先生の教えの行法のすべてであるのです。ですから、「一分間ほど息を止める」とか「息を数える」とか、息をコントロールする必要はありません。

また、願望成就については、「思い描く」という新しい言葉を使つてはいても、それは念力のことであり、念力による願望成就法は、人を功利的な卑しい人間にさせますし、真実の祈りとは違うのですから、いつまでたっても真実の安心立命の境地には至りません。仮に自分の欲する求めたものが得られたとしても、それによってかえって運命を悪くするということもあることを知らねばなりません。また、お互いに念力を強めて一つのを欲すれば、これは念力闘争の世界となり、念力の弱い者は敗北者とならねばなりません。それに念力の生き方では、ちょっとでも気を緩めれば目標を達成できなくなるので、常に緊張を強いられることになり、そのため感情の起伏が激しくなり、欲求不満が積もり積もって、人に当たり散らす精神不安定な人間になります。

真実の祈りというのは、自分勝手な欲望願望を叶える方法ではなくて、自分勝手な欲望願望を神のみ心に投げ入れて、欲望願望想念をなくしてしまう方法なのです。ここでほとんどの人が思うのは、「何も欲望願望を思い描かずに、念じないで、一体どうして成功できるのか？」という疑問です。

この疑問について、イエスはこのように教えて下さっています。

《汝らの父は求めぬ前（さき）に、なんぢらの必要なる物を知りたまふ》

[マタイ傳第六章8]

《何を食（くら）ひ、何を飲み、何を著（き）んとて思ひ煩（わづら）ふな。是（これ）みな異邦人（いほうじん）の切（せつ）に求むる所なり。汝らの天の父は、凡（すべ）てこれらの物の汝らに必要なるを知り給（たま）ふなり。まづ神の国と神の義（ぎ）とを求めよ、さらば凡てこれらの物は汝らに加へらるべし》

[マタイ傳第六章31～33]

文語体が苦手な人のために、現代語でやさしく意識しますと、こういう意味になります。

「あなた方が、あれが欲しいこれが欲しいと願い求めるよりも先に、神はあなた方に必要な物をとっくに知っていらっしゃるのです。ですから、あなた方はまず、この地上に神

の平和な世界が現れることと、神の真実の相（すがた）が現れることを求めて祈りなさい。そうしていれば、あれが欲しい、これが欲しいと細かいことを神に願わなくとも、あなた方に必要なすべての物は神から与えられるのです。」

このイエスの言葉こそ、真実の祈りと現世利益との関係を説いた教えなのです。あなたが自分勝手な想いでいちいち欲しいものを思い描いたり願望を強く念じなくとも、守護の神霊はあなたに必要なものはすでにご存じで、あなたに必要なものをすべて与えようと準備して下さっているのです。それを言いかえますと、あなたは、神のみ心である世界平和を祈り、天命の完うされることを祈っていさえすれば、あなたに必要なすべてのものは神から与えられる、ということになるのです。

このイエスの教えは、仏教の「色即是空、空即是色」と同じ教えなのですが、空という言葉が使われていないために、イエスの深い真意を理解できず、欧米のほとんどの自己啓発思想にはこの「空の思想」が欠けているのです。その自己啓発書の影響を受けた日本の宗教家の中にも、願望を達成するには念力しかないと思ひ込み、祈りと併用するか、あるいは祈りを否定して、「あなたの求めたいものを思い描きなさい」という念力を教えて、信者もろとも業想念に執着し、外道に陥っている宗教家もいるのです。

「守護霊様、私達の天命が完うされますように」というような真実の祈りを祈っていれば、願望を思い描いたりイメージを強く念じたりする必要はないのです。神が愛であり全知全能であることを信じて神に全託していれば、あなたに必要なものはすべて神から与えられ、必要な環境は整えられるのです。神への全託の結果、神から与えられた幸運やすべてのものはあなたを真実の幸福へと導いてゆくのです。

【祈り言と暗示法とは、どちらが正しく、効果的なのですか？】

【ご質問-2】〔要旨：祈り言と暗示法とはどちらが効果的ですか？〕

「『何々して下さい』『何々になりますように』『こうなりますように』『何々が与えられますように』と望む方法では効果はありません。『自分はすでにこうなったのだ』『もう与えられているのだ』『すでに願望は達成されたのだ』『絶対に治った、治った』と、自分の望みを完了形の言葉で思い描き、それを信じると、その通りになるのです」という教えがあります。この教えが正しいとしますと、「世界人類が平和でありますように」と祈るよりも、「私は神である」「私はすでに神になった」「世界人類は平和である」と宣言する方がより効果的だということになります。一体どの方法が正しく、効果的なのでしょうか？

【お答え-2】〔要旨：暗示法よりも真実の祈り言の方が正しく効果的です〕

この教えは、真実の宗教の教えではありません。前者の「何々して下さい」という方法は、守護の神霊という対象があるので、「対話形の祈り」または「対話形の願い事」と言います。「対話形の祈り」と「対話形の願い事」の違いは、目的の違いでありまして、神のみ心になかった目的を願う時には「対話形の祈り」と言い、自我欲望のままに願う時には「対話形の願い事」と言うのです。このように同じ「お願いする形」でも、「祈り」と「願い事」とは違います。

「神様、何々して下さい」という言葉も、このように「祈り言」と「願い事」の二つに分けられます。神様に自分勝手な願い事を頼んでおいて、それが叶えられないからといって、「神様に祈っても駄目だ」と不平を言っても、それはもともと祈り言ではないのですから、神様に聞き入れられるはずもありません。「祈り言」と「願い事」を区別して考えねばなりません。

たとえば「神様、私の欲しいものが得られますように」とか、「神様、わが国が戦争に勝ちますように」と祈ったところで、それは真実の祈り言ではなく、神はそのような自分勝手な願い事は聞き入れられません。それでたまたま勝利を得たとしても、それは神の力によって得た勝利ではなく、念力で得た勝利です。また、その人の欲望想念に波長の合った幽界の生物がその人に憑依する危険もあります。

一方、真実の祈り言、たとえば「世界人類が平和でありますように」とか「私達の天命が完うされますように」という神のみ心に合った祈り言は最も効果のある方法です。効果がないと思うのは、守護の神霊に全託していないためであって、祈り言に効果がないためではありません。業想念が消え去って真実の姿が現れてくるまでには、それなりの時間がかかるのですし、その人の業想念の厚さによっても祈りの効果が異なってきますが、真実の祈り言は最も効果のある神性開発法なのです。

それに対して、後者の「すでに願望が達成された」と思い描く方法は真実の宗教の教えではありません。心理学で言う暗示法（完了形の暗示、肯定暗示）を利用したもので、その暗示に用いる言葉を「断言」と言い、英語ではアフアメーション（Affirmation）と言います。

なお、この「断言」に似ている言葉に「宣言」（Declaration、ディクレーション）という言葉がありますが、「断言」と「宣言」とは別の意味として分けて考えねばなりません。宣言は「真実にそうになっている」時に用いるのに対して、断言（暗示法）は「まだそうになっていない」時に用います。そして断言には、過去完了形（すでにそうになった）、現在完了形（今すでになっている）、未来成就形（未来に～になる）というような種類があり、このうち未来成就形の「断言」を「確言」と呼び、私は区別しております。

たとえば巨大なビルを建設した後に「私は巨大なビルを建てた」という言葉は真実なので、その言葉は宣言と言えます。しかし、巨大なビルを建てる前に「私は巨大なビ

ルを建てた」と自己に言い聞かす言葉は、その人のイメージの中だけであって、現実としてはまだビルが出来ていないのですから、宣言とは言わず、暗示の言葉または断言（断定形の言葉）です。

また、もう一つの例を出しますと、真実に自己の神性を顕現した人が「（今）私は神の子である」と唱えれば、それは宣言（宣言形の祈り）となりますが、まだ神性を顕現していない人が「（今）私は神の子である」と唱えた場合には、それは宣言とは言えないのであり、自己暗示の断言にすぎません。自己暗示の断言をどんなに繰り返して唱えても、真実の宣言にはなり得ません。「私は神の子であると宣言する」と宣言の言葉を用いても、神の子になっていない人が唱えた言葉は、宣言ではなく、暗示の言葉にすぎません。

ご質問にあるように、宗教家によっては、「私の願望はすでに成就された」「私は治った」「私はすでに欲しいマンションを手に入れた」「私は社長になった」「私はあの人と結婚している」というように、完了形の断言による願望成就法を教えている指導者がおります。そして、この暗示法を宗教的目標の達成にも応用して、「私はすでに神になった」「私は神である」「世界は平和である」という断言による目標達成法を、従来の祈り言よりもさらに一層進んだ方法であると教えている宗教指導者もいます。しかしその行為は、守護の神霊の加護を拒否する行為であり、神への冒瀆です。

「私はすでに巨万の富を手に入れた」という断言による暗示法も、「神様、お金をください」という願い事も、表現の形は異なりますが、どちらも「念力」に変わりはありません。車を買うとか家を建てるとか、物質的な願望を成就する程度ならば、念力で得られることもあります。宗教的な目標は、「私は神である」「世界は平和である」と思い描いても、念力の方法ではとうてい達成できません。それはなぜかというと、神性を開発するとか世界を平和にするには、業想念の世界を抜けなくてはならないからです。業の念の力を強めても、それは業想念の世界のことですから、いつまでも本体本心は現れてきません。神性を開発し、世界を平和にするには、念の力では達成できません。神性を開発し、世界を平和にするには、どうしても守護の神霊の加護の力が必要になってきます。守護の神霊の力と分霊の力が一体になってこそ、人間は神の子としての完全能力を発現することができるのです。

まだ神性を顕現していない人が、「（今）私は神の子である」と言ったら偽善者になりますし、「（今）世界は平和である」と言っても、現実には世界は平和でないのですから、自分の潜在意識は納得しませんし、嘘をつくことになり、多くの人々の賛同も得られません。現実を無視し、嘘をつくやり方というのは、常識的な多くの人々から賛同を得られません。多くの人々に納得してもらえず、多くの人々に賛同してもらえないような無理なやり方では、平和運動として大きな力にはなりませんし、長続きするものではありません。

断定形の暗示を教える人は、「～でありますように」という表現が、「～である」という断定形よりも弱々しく感じられる、という理由をあげるのですが、強く感じられればなんでもよいというものではありません。「何事も過ぎたるは及ばざるがごとし」でありま

して、たとえばお風呂に入る時にも熱過ぎでは火傷をしてしまいますから、冷水でちょうどよい適当な温度に調節する必要があります。また、早ければ早いほどよいからといって、赤ん坊は一日では大人にはなりませんし、大学受験の前日に教室にいても試験を受けることはできません。まだ国会議員になってもいないのに、選挙する前から「私は国会議員である」と宣言しても、世間の人に笑われるだけです。「私は億万長者である。私は無限の富を持っているのだ」と銀行の窓口で宣言しても、銀行員は融資をしてくれません。この世界では、ある程度の時間というものが必要であり、物事を成就するには、ちょうどよい時期グッドタイミングで行なってこそうまく成就するのです。人間は誰でもいずれは神の子になるのは定まっていることなのですが、その過程にある現在、神の子になったふりをしてみても、それは焦りという業想念の行為であり、偽善者となります。

このように、温度にしても、物事を行なうタイミングにしても、中庸というものがありません。「今、世界は平和である」と言ったら、強い表現には違いありませんが、それは早過ぎる発表で、嘘になります。嘘という欠陥があります。この言葉には、未来を性急に現在に持って来るようなもので、無理があるのですから、常識を持った多くの人々には唱えられる言葉ではありません。それに対して、「今から永遠に、世界人類が平和でありますように」という祈り言には嘘はありません。すべての宗教者が抵抗感なく唱えられる祈り言ですし、信仰の対象が特になく人でも無理なく祈れます。ですから、この祈り言は最強の中庸の祈り言であると言えます。

「私は神の子になった」という偽善者を生む暗示法よりも、「守護霊様、私の本心を現して下さい」とか、「守護霊様、私の神性が一日も早く現れますように」というような守護の神霊への祈り言の方が、はるかに自然で無理がなく効果的です。「世界は平和である」という無理な暗示法よりも、「世界人類が平和でありますように」という世界平和の祈りの方が、神性開発にも世界平和実現にも、はるかに効果がある方法です。

自己暗示法に惑わされず、守護の神霊に加護を願い、世界平和を祈り、感謝の祈りを続けて下さい。「世界人類が平和でありますように」と、「世界平和の祈り」の中に入りきっている時、あなたは神の子の光明を顕現しているのであり、平和な世界に住んでいるのであります。

【参考1：祈りとイメージ】

祈りというのは、念力のように、強くイメージすることではありません。「強くイメージする」という行は念力であり、誤りであって、私は一度もそんな教えは説いておりません。真実の祈りには、そうした力みは一つも必要ありません。あなたが強く思おうと弱く思おうと、そんなこととは関係なく、「世界平和の祈り」を唱えていれば、あなたは救われ、世界は平和になってゆくのです。

【参考2：全託】

守護の神霊に向かって「世界人類が平和でありますように」と祈り、守護の神霊の大愛に自己の運命を全託することによって、私たちの神性は開発され、私たちの人生は幸福な

運命となり、世界は平和になるのです。「世界平和の祈り」の中で、ふつうに日々の生活をしていさえすれば、この世においてもすでに大悟の境地に入ることを約束されたと同じであることを知って下さい。

【神さまの大愛を信じましょう】

「自力だけでも駄目、他力だけでも駄目、自力と他力を合わせた渾然一体化した生き方が最善なのだ」「自力行と他力行の調和が最良の生き方なのだ」と説く人がいますが、自力と他力とではまるで道が異なるのですから、自力と他力を合わせても、調和した生き方にはなりませんし、渾然一体化とはならず、中途半端な生き方となるだけです。自力と他力の両方を混ぜた教えは二元論的な生き方を説くことになり、矛盾撞着した生き方になってしまうのです。「自力の道を行くべきか、他力の道を行くべきか？」というこの問題は、宗教の道を歩む者の第一になさねばならぬ選択なのです。

五井先生は、ご自身で「私の教えは他力易行道です」「私は他力の行者です」と明確に説いておられます。「世界平和の祈り」は他力の行であり、他力以外の自力の教えは五井先生の教えの中には一つもありません。守護の神霊に向かって「世界人類が平和でありますように」と祈り、守護の神霊の大愛に自己の運命を全託することによって、私たちの神性は開発され、私たちの人生は幸福な運命となり、世界は平和になるのです。「世界平和の祈り」の中で普通に日々の生活をしていさえすれば、この世においてもすでに大悟の境地に入ることを約束されたと同じであることを知って下さい。

ところが、こんなに素晴らしい「世界平和の祈り」の教えを知りながら、「世界平和の祈りだけでは神性を開発することはできない、世界を平和にすることができない」と思ったり、「世界平和の祈りよりも他にもっとよい祈り言や行法があるのではないか？」と思うようになって、「世界平和の祈り」以外の自力行や行法に魅力を感じ、再び低い波動の宗教に転落してゆく人もいます。このような人は、まだ五井先生の高い教えに自己の心境が合わず、五井先生の教えを理解する時期が来ていないがゆえに、五井先生の教えに落ち着けず、自分の未熟な心境に合った低級な宗教や行法へと落ちてゆくのです。

また、かなりの境地にいる宗教者でも、「世界平和の祈り」を長い間やっている人でさえも、真実に悟るまでには、フッと魔が差したように、突然に五井先生の教えが低い教えに見えてきたり、五井先生を信じられなくなったり、不安な暗い気持ちに襲われたり、「世界平和の祈りだけじゃ駄目なんじゃないか」と、「世界平和の祈り」を否定する気持ちに陥ることがあるのです。同時に、現実の生活でも自分の勤めている会社が倒産したり、家族が不慮の事故で亡くなったり、負債を抱えたり、不治の病に罹ったりしますと、「消えてゆく姿である」と思えなくなり、気持ちが沈んで暗くなってゆくことがあるのです。

これを修行途中にある魔境というのですが、こんな場合にも、すぐれた宗教指導者に就いておられますと、自己に憑依してきた業想念を祓い浄めていただけるので、すぐに元通り

の明るい元気な心に戻れるのですが、善き師につかず、一人で修行している人は、次々と襲いかかってくる業想念を自己の力で浄めることができず、業想念に憑依されたまま迷い続けることになってしまうのです。こんな時には、素直に守護の神霊を呼ぶか、五井先生の助けを呼べばよいのですが、「外部の守護の神霊に何々して下さいと願う祈り方は、自己の内部神性を否定することになるから間違っている。守護の神霊に頼ってはいけないのだ」と潜在意識で思いこんでおりますと、その想念が呪縛となって守護の神霊の応援が得られず、いつまでも業因縁の世界をグルグル廻りすることになるのです。

今日の人々は、家族を養うために働くだけで、もう精一杯なのです。昔のように山にこもって、自力行でのんびりと霊性開発している暇はありません。爆弾が落ちてきたら、山で修行することさえ出来なくなるではありませんか。一年に一回くらい座禅をしたり、たまさか冷たい滝を浴びても、それくらいの行では、とうてい悟れるはずもありません。業因縁の渦から解脱するためには、自力では無理なのだと一日も早く知らなければなりません。「自力行では悟れないのだ」「自力では何事もなし得ないのだ」と心の底から気づくことが他力行への第一歩なのです。多くの奇蹟を起こしたイエスさえ、《我みづから何事もなし能（あた）はず》（ヨハネ傳第五章）と肉体人間の自己の無力さを説き、神への全託の必要性を説いているのです。まして現代は、守護の神霊の加護なくしてはどうてい神性の開発は不可能な時代なのです。そのため、現代においては守護の神霊と分霊の一体化によって分霊の神性が開発されるようになっているのです。

神は大愛であり全智全能であることをまず信じることです。その大愛なる神は、守護の神霊という形で私たちを愛して下さい、全智全能の力で私たちを守っていて下さるのです。守護の神霊に向かって「世界人類が平和でありますように」と祈る時、神は私たちを救い、世界を平和にして下さると約束して下さいましたのです。

どうして、その神の約束を信じられないのでしょうか？ 神は業生の人間と違って、一度した約束を破ることは決してなさらないのです。「あなたを守ります」と神さまが約束して下さいたら、あなたは必ず守られるのです。「あなたを幸福にします」と神さまが約束して下さいたら、あなたは必ず幸福になるのです。「世界を平和にします」と神さまが約束して下さいたら、世界は必ず平和になるのです。

あなたが為すべきことは、山にこもって座禅をすることでもなければ、冷たい滝を浴びたり断食することでもありません。難行苦行することでもありません。あなたの為すべきことは、ただ一つ、神さまの約束を信じることだけでよいのです。神さまを疑って、神の救いの手を拒否してはいけません。

どんなに苦しい目に遭おうと、「神さまはきっとよくして下さいに違いない」と信じましょう。どんなに悲しい目に遭おうと、「神さまは私を愛し守って下さっているのだ」と

信じましょう。どんなに長い時がかかろうと、「神さまは私たちを救って下さるに違いない」と信じましょう。

神さまは大きな愛であるのです。今更なぜ神さまの大きな愛を疑うのですか？
神さまは全智全能であるのです。今更なぜ神さまの全智全能を疑うのですか？
神さまにすべてを委ねるのです。今更なぜ何を不安に思い心配するのですか？

神さま、あなたさまにすべてをお委せいたします。
神さま、世界人類が平和でありますように。
神さま、ありがとうございます。

私たちの世界平和の祈りは、こうした全託の祈りそのものであるのです。

【参考3：師を持つ】

先達に教わらず、一人で自己の霊性を開発してゆくのは並大抵のことではありません。途中で挫折してしまうか、悟ってもいないのに悟った気持ちになって、高い境地へ上れず、低い階層で迷い続けてしまうことにもなりかねません。守護霊は、直接霊感的に伝えるだけでなく、肉体を持った身近な人や先達を通して教えて下さることも多いのですから、誰にも習わなかったら、守護霊のせつかくの声を聞き逃してしまうことにもなります。